

Case Study

1

アーケテック株式会社

柔軟な生産体制の構築と海外工場活用により、 板金加工製品の供給責任を果たす

Data

対象事業 : 精密板金加工事業

対象リスク : 大規模地震

被災シナリオ : 震度6強の地震発生。発災後3日間の停電、
10日間の断水、2週間から1カ月のガソリン不足

事業継続策 : 中核事業の目標復旧時間以内での再開のために
事業継続チームを設置、海外子会社を活用する。



企業名 アークテック株式会社

代表者名 荒川 吉朗

Q 御社の事業内容は？

精密板金加工により鉄道関連部品、半導体関連部品、その他機器部品を製造しています。顧客のあらゆるニーズにスピーディーに対応し、時代の一步先行く「モノづくり」を設計・開発から試作、製造、組立まで行い、多品種少量生産に対応できるのが強みです。また、海外工場では量産加工も可能となっています。

Q 今回BCP策定に取り組まれた理由を教えてください。

東日本大震災の際には、停電・ガソリン不足等により製造に影響が出ました。また、顧客・協力企業との連絡や、社員の安否確認のための体制整備の必要性を再認識しました。災害時でも顧客への供給を絶やさず、鉄道関連部品サプライヤーとしての社会的責任を果たすため、BCP策定に取り組みました。

Q 策定したBCPの主な内容(ポイント)を教えてください。

通常時から工場作業者の多能工化を推進し、非常時には複数部署の社員が連携して業務に取り組む体制を構築しました。迅速な情報収集のため、従業員連絡参集リスト及び顧客・関係企業連絡リストを作成しました。徒歩出社可能な社員により対策本部を設置し、適切な初動対応を図り、事業継続チームにより事業の目標復旧時間内での再開を目指します。フィリピン工場の設計・製造設備を活用して、生産を継続する計画となっています。

Q BCP策定によって得られた気づきはありましたか？

食料・医薬品ほか防災用品を整備する重要性和、工場内機械・設備および事務所内備品の耐震化をすすめる必要性を再認識しました。また、災害時問題となりうる箇所を検証する際、事業プロセスを見直すことで業務の流れを再確認し、改善点を発見できました。さらに、現在使用頻度の低い土地・工場・設備などの資産活用の可能性を見出すことができました。

Q 今後の課題と方向性について教えてください。

中長期計画を再検討して実行を図り、遠隔地に存在する同業他社や原材料の供給企業、関係機関との連携協力体制の構築を模索していきます。社員の教育と全社的な訓練を実施するとともに、海外子会社との一層の連携強化をすすめていきます。

Q BCPを策定した感想をお願いします。

非常時にあっても事業継続できる一定の体制を整えることができ、通常時または被災時に何をやるべきかの優先順位が明確になりました。BCP策定委員会のメンバーを中心に、社員の意識向上を図ることもできました。

商号 アークテック株式会社
本社所在地 栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち
4-11-16
設立 1969年(昭和44年) 5月20日
資本金 10,000,000円
従業員数 33名
代表者 荒川 吉朗
事業内容 精密板金加工、プレス加工、プレス金型、
アSEMBリー、自動化機器の設計・製造
URL <http://www.arktech.co.jp/>